

世界的な穀物需要の増大やロシアのウクライナ侵攻により、肥料原料輸出の輸出規制などが強まり、令和3年度から肥料価格が高騰しています。今年4月の「農業物価指数」では、令和2年の価格を100とした場合、肥料価格で155.3となり、高止まりで推移しています。JAふじ伊豆では、生産者の皆さまへの独自支援や行政への支援要請を通じ、地域農業と地域の食を守る地産地消の維持に全力で取り組んでいます。

生産者の声

西浦柑橋出荷部会 ミカン生産者

池田 政則さん(沼津市)



もうかった分は畑に返す

私は「もうかった分は畑に返す」をモットーに作物を育てています。昨今の肥料価格の高騰で、以前に比べると値段は2倍弱になりましたが、西浦みかん寿太郎は消費者の皆さまのおかげで販売は好調でした。その分“畑に返して”品質向上に努めたいと思います。JAのサポートもあってスムーズに助成金を申請でき、助成金は作物の品質確保に活用しています。おいしいミカンを育てますので、消費者の皆さまにぜひ味わっていただきたいです。



プロフィール

沼津市内浦地区で古くから続く農家。柑橋園で、西浦みかん寿太郎、青島、ゆら早生を生産。畑でキウイフルーツも栽培しています。

生産者の声

ファーマーズ御殿場 出荷者

加藤 由富さん(御殿場市)



地元の方が買ってくれるのが励み

品質の良い農産物を生産するにはやはり肥料が不可欠です。肥料価格の高騰に悩まされ、高騰した肥料の代わりに籾殻や馬ふんを完熟させた堆肥を活用して生産を維持しました。高騰後も消費者が求めやすい価格を心がけて出荷しています。

JAには販売実績の管理や土壌診断、助成金の申請サポートなどをしてもらい助かっています。まだまだ厳しさは続くと思いますが、消費者の皆さまが買ってくれることを励みに、地産地消に貢献したいと思っています。



プロフィール

「ごてんぼしひかり」の生産者。大根、タマネギ、白菜、春菊、小松菜、レタス、ホウレンソウなど、多くの野菜も生産し当JA「ファーマーズ御殿場」に出荷しています。

食料安全保障につながる 地産地消

生産資材高騰対策

JAふじ伊豆では、値上げ前に肥料の前倒し販売や土壌診断、堆肥利用の推進など独自支援を展開してきました。昨年6月には役職員が管内市町の首長を訪問。「農家経営安定に向けた緊急要請」を行いました。

16市町では各地域に合わせた農業支援事業を実施。当JAでは、支援施策の窓口となり生産者の皆さまの申請手続きをサポートしました。3月末現在、肥料助成金など合わせて、合計2,048件1億4,231万円の申請を支援しました。また、国・県に対しての申請手続きもサポートし、合計577件1,858万円の申請を支援しました。



農業生産資材価格高騰対策を緊急要請する当JA役職員(左)

生産者と消費者をつなぐ JAふじ伊豆

食料安全保障には 生産者の経営安定化が重要



営農販売部 営農課長

鈴木 紀行

昨今の肥料など資材価格の高騰による生産者の皆さまの苦勞に直面すると「食料安全保障」という言葉がより身近に感じられます。「食料安全保障」を維持するには、生産者である「地域農家」の経営安定化が第一です。そのため、当JAでは資材高騰に対して独自支援や行政への働きかけ、補助金申請サポートなどを通して、今後も生産者支援を継続していきます。「富士伊豆からつなぐ～大地と地域と農業のみらい～」の経営理念のもと「食料安全保障」の基礎である「地産地消・国産国産」に取り組んでいます。

営農アドバイザーとして 生産者と協力 消費者には「食べて応援」を呼びかける

御殿場営農経済センター 地区営農課 営農アドバイザー

内野 美里



肥料価格高騰に対し、生産者の皆さまが必要以上の肥料を田畑に施すことのないように土壌診断を勧めました。その結果をもとに土壌の性質に適した肥料を勧めるとともに、安価な代替品の提案も行っています。農業所得減や市場への出荷減少を防ぐため、新品種の生産支援や市場動向を生産者の皆さまに伝えたいです。おいしい農産物を届けるため生産者の皆さまと協力していきますので、消費者の皆さまには「食べて応援」をお願いします。

消費者の声

フレンチレストラン「Maison KEI(メゾン ケイ)」シェフ

佐藤 充宜さん(御殿場市)

地元農産物の素晴らしさを伝えたい

毎週「ファーマーズ御殿場」に伺い、地元の農産物を仕入れています。この土地に足を運んでくださるお客さまに、この土地の水や風土を生かして生産者の皆さまが丹精込めた地場農産物の良さを伝えるために、あまり手を加えずに素材の味を大切に料理を心がけています。

私たちの仕事は、食材を生産してくださる生産者の皆さまのおかげで成り立っています。地元農産物の素晴らしさを、野菜を使う人、料理をする人、食べる人に伝えていきたいと思っています。肥料価格高騰で厳しい状態が続いていますが、がんばっていただきたいです。



プロフィール

平成23年に24歳で渡仏。地方のレストランなどを経て、平成27年からパリのミシュラン三ツ星レストラン「Restaurant KEI」に勤務。同店の小林圭シェフのもとで腕を磨き、令和3年に同店の姉妹店、御殿場市の「Maison KEI」のシェフに就任。地場の食材を使用し、地方から食の魅力を発信しています。

Maison KEI 御殿場市東山527-1 Tel:0550-81-2231

消費者の声

「みしまるかん」でお買い物の「ママ友」さん

子どもたちに安全・安心な農産物を食べさせたい

いつも「みしまるかん」で、買い物を楽しんでいます。トマトもブリット、ホウレンソウやキャベツもシャキシャキで「新鮮で生きている農産物」がうれしいです。子どもに食べさせても安心。求めやすい値段も魅力です。本当に地元生産者の皆さまには感謝しています。知合いのトマト生産者が「みしまるかん」に出荷しています。トマトハウスに伺ったこともあり、毎日丁寧に情熱を持って育てている姿に感動しています。大変なときですが、がんばってほしいです。



左から鳩野 桃野さん、君澤 朱野さん、川井 理恵さん、平澤 咲紀子さん(皆さま三島市在住)

プロフィール

子育て真っ最中の30代のママ友の皆さま。当JAファーマーズマーケット「みしまるかん」で地産地消！生産者の皆さまの農産物を「食べて応援」しています！

みんなで実践 国産国産 協同の和 JAふじ伊豆トピックス

甘み・酸味ともに絶妙



目ざろえ会で規格を確認する生産者

伊豆太陽地区でハウスミカンの出荷時期を迎えています。6月14日には規格の統一と品質向上のために目ざろえ会を行いました。豊かな甘みと爽やかな酸味が調和し、品質、生育ともに良好です。8月下旬ごろまで「稲取漁港直売所こらっしえ」などで販売しています。

「みしまともろこし」魅力拡大



収穫間近のトウモロコシを確認する生産者

三島函南地区は同地区で生産するトウモロコシを「みしまともろこし」と総称し、産地PRに力を入れています。「みしまるかん」では毎週日曜日に「とともろこし祭り」を開き、にぎわっています。7月も引き続き開催予定ですので、ぜひお越しください。

ズッキーニ 仕上がり上々



目ざろえ会で品質を確認する生産者

伊豆の国地区では5月下旬からズッキーニの本格出荷を迎えています。今期の仕上がりは上々で、11月ごろまで出荷が続きます。「ズッキーニはどんな料理にも合うので評判がよい。いろいろ活用してほしい」と生産組織「小さな緑の会」の西島茂会長はおすすめしています。

「アイランドルビー」が旬



生産者のハウスを見学する女性部員

あいら伊豆地区特産調理用トマト「アイランドルビー」が旬を迎えています。6月6日には女性部あいら伊豆地区本部の部員が生産者やJA職員から栽培方法や産地振興への取り組みを学びました。「アイランドルビー」は「いで湯こ市場」などで販売しています。

タマネギ援農ボランティア始動



農作業の人手不足解消、生産者と交流

なんすん地区は生産者の声に添えて新たにタマネギの援農ボランティアを始めました。収穫は労力負担が大きく、女性の生産者も多いことから、6月下旬まで26人のボランティアが負担軽減のために活躍しました。※援農ボランティア募集は当JAホームページをご覧ください。

空中散布で省力化



田植え機で約2時間の作業を約10分で終了

子会社のJA協同サービス(株)は5月25日、御殿場市でドローンによる稲の種子を直まきする実証実験を県東部で初めて実施しました。ドローンの活用により、時間と労力が大幅に削減でき、担い手不足や耕作放棄地増加などの地域農業の課題解決が期待されます。

まもなく旬！「富士梨」



高品質生産に向けて剪定を学ぶ部会員ら

富士地区梨部会は5月中旬、部会員の園地で夏期剪定講習会を開き、部会員ら24人が参加しました。県農林技術研究所から講師を招き、効果的な剪定方法を学びました。富士梨の出荷は8月初旬から始まる見込みで、富士市内の直売所やJA産直市の一部で販売されます。

米作りの大切さ伝える



園児と保護者に植え方を教える佐野支店長(右)

富士宮地区の営農部署や各支店は毎年、地元幼稚園や小学校に食農体験の水稲苗の提供や田植え指導を行い、農業の魅力を伝えています。5月12日には富士根支店の佐野昭博支店長らが地元幼稚園を訪れ「バケツ稲づくり」体験を実施。12月には餅つき大会を予定しています。